

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

- 1 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
- 2 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
- 3 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
- 4 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
- 5 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
- 6 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
- 7 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
- 8 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その4)
- 9 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その1)
- 10 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その2)
- 11 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
- 12 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
- 13 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
- 14 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
- 15 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では一部のみしか鑑賞しない場合もある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴェントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

授業計画

- 1 オリエンテーション 心理学が誕生するまで
- 2 行動主義と学習理論 1
- 3 行動主義と学習理論 2
- 4 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
- 5 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
- 6 発達心理学 1
- 7 発達心理学 2
- 8 認知心理学 1
- 9 動機づけ・情動
- 10 社会的行動理論
- 11 人格の形成
- 12 人格の評価
- 13 臨床心理学 1
- 14 臨床心理学 2
- 15 総括・期末テスト

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30点、定期試験70%

欠席について

欠席は1回で3点、遅刻は2点の減点とする。欠席5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長) 社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、福祉、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉とわたしたち
- 3 社会福祉の歴史の変遷
- 4 社会福祉の理念(意味と考え方)
- 5 現代社会の生活問題と社会福祉
- 6 社会福祉行政と実施体系
- 7 社会福祉と社会保障の制度(生活保護制度を中心に)
- 8 社会福祉の専門職
- 9 共生社会の実現と障害者施策
- 10 子ども家庭福祉と社会福祉
- 11 少子高齢社会と子育て支援
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み及び医療福祉
- 14 社会福祉の課題(在宅・地域福祉)
- 15 まとめ講義とレポートの提出

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、レポート60%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

一瀬早百合「社会福祉とわたしたち」萌文書林 2022年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念や、社会にある様々な人権侵害事象について理解し、人権問題に対する知見を深めるとともに人権感覚を高めて実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な方法や、このクラスではKAISEIパーソナリティI(知性)とS(奉仕)を養い、人権が尊重される社会を築くにはどうすればよいか、学校教育の中でどうすればよいかを考察する過程で、K(思いやり)の諸能力を生かす。

授業の概要

人権教育は、人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成するための教育である。授業では、社会にある様々な人権問題や人権侵害事象についての知見を深めながら、自分自身の人権意識や人権感覚についても検証し、人権が尊重される社会を築くにはどうすればよいか、教育の中でどうすればよいかを考察する。

授業計画

- 1 ☆人権教育とは？
・「人権問題」にはどんなものがあるか？・今まで学校で受けてきた「人権教育」は？・「戦争」と「人権」・「新型コロナウイルス感染症」と「人権」
- 2 ☆差別はなぜ起こるのか？
・「震災」と「震災デマ」・フェイクニュース・なぜ人は「人権侵害」するのか？・「人権教育」とは？
- 3 ☆人権教育を推進するために
・「人権問題」を考えるにあたって大切なことは？
- 4 ☆同和問題を考える①
・同和問題(部落差別)って何？
- 5 ☆同和問題を考える②
・同和問題(部落差別)とは・同和問題の歴史
- 6 ☆同和問題を考える③
・同和对策審議会答申・33年にわたる同和对策事業・見えにくい「部落差別」問題・部落差別解消推進法・「寝た子」はネットで起こされる
- 7 ☆ヘイトスピーチを考える ～在日コリアンの理解～
・外国人と人権・朝鮮半島と日本の関係・「在日コリアン」とは？・ヘイトスピーチ解消法
- 8 ☆障がい者理解
・人権三法・障害者差別解消法・「障害を理由とする差別」とは・合理的配慮
- 9 ☆特別支援教育・インクルーシブ教育
・特別支援教育をめぐる制度改正・インクルーシブ教育システ

ム」とは・日本のインクルーシブ教育の現状と課題

- 10 ☆いじめ問題を考える
・いじめ防止対策推進法・いじめ防止基本方針・いじめが起こったらどう対応するか？・「いじめ」をどう教えるか？・情報モラル教育
- 11 ☆セクシャルマイノリティの理解
・性の多様性に関する基礎知識・日本の「性的マイノリティ教育」の現状・性的指向に関する世界の状況
- 12 ☆人権感覚・基本的人権
・日本の「ジェンダーギャップ指数」・自分自身の人権感覚をみつめてみる・人権自己診断・改めて「基本的人権」を考える
- 13 ☆世界人権宣言・子どもの権利条約・ユニセフ(UNICEF)・国連児童基金
- 14 ☆SDGsから考える人権教育
- 15 ☆まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら社会にある様々な人権侵害事象についての学習を深める。また人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

準備学修

報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布されるレジュメやプリントをファイルし、整理保存すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1			11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、近代スポーツを教材化し、みんなが楽しめるスポーツを体験し、スポーツ文化を創造していく過程を学ぶことで、主体者としてスポーツに関わっていくことができるようにする。また、スポーツの上手い下手で固定的な縦の価値観を持つのではなく、みんなで上手くなる水平の価値観に変革する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）I（知性）及びS（奉仕）を養う。

授業の概要

ゴール型、ベースボール型の教材をさらに教材化し、初心者と上級者をつなぎ、みんなで楽しみ上手くなることを目指す。
ゴール型ではアメリカンフットボールを安全に配慮したフラッグフットボール、ベースボール型では3人対3人で行うベース3on3を教材として行う。

授業計画

- オリエンテーション
フラッグフットボール①
基礎技術の習得
- フラッグフットボール②
1対1、2対2の攻防
- フラッグフットボール③
2対2の攻防
- フラッグフットボール④
2対2の攻防
- フラッグフットボール⑤
2対2の攻防
- フラッグフットボール⑥
3対3の攻防と作戦づくり
- フラッグフットボール⑦
3対3のゲーム
- フラッグフットボール⑧
3対3のリーグ戦
- フラッグフットボール⑨
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

- ベース3on3①
基礎技術の練習、2対2の攻防
- ベース3on3②
3対3の戦略・戦術づくり
- ベース3on3③
3対3のゲーム
- ベース3on3④
3対3のゲーム
- ベース3on3⑤
3対3のリーグ戦
- ベース3on3⑥
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

授業の方法

実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修

スポーツに関心を持ち、ニュース、新聞、Web等でスポーツに関する情報を獲得するよう努める。日頃より運動を取り入れて健康管理に努める。

課題・評価方法、その他

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70% 定期試験30%

欠席について

規定に従う。
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト

プリント配布

留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 年中行事 その壱
（正月について）
- 年中行事 その弐
（節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂（葵）祭）
- 年中行事 その参
（夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭）
- 年中行事 その四
（7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三）
- 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 邪馬台国のあった頃の中国（魏）
吉川英治『三国志』を読む。
- 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。また、書写に親しむ時間を毎回設ける。

授業計画

- 1 聞く力を養う。
質問力・雑談力を高める。
- 2 間違いやすい「敬語」
尊敬語と謙譲語を学ぶ
- 3 「敬語の種類」
- 4 「日常生活と言葉づかい」(1)
- 5 「日常生活と言葉づかい」(2)
- 6 「ビジネス社会における敬語(1)」
- 7 「ビジネス社会における敬語(2)」
- 8 学校・保育現場の保護者との話し方
- 9 「就職活動と書類」[さまざまな熟語]
- 10 「レポート」の書き方。
- 11 「誤用文と推敲の方法」
- 12 「手紙とはがき(1)」
- 13 「手紙とはがき(2)」
- 14 「ビジネス文書」[修辭法と慣用句]
- 15 「学校・保育現場における通信文」
- 16 まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1 <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2 <評論文>(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3 <評論文>(3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4 <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5 <評論文>(5) 引用の規則を学ぶ。
- 6 <新聞投稿> 検索能力を養う。
- 7 <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8 <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9 <意見文・説得文> 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10 <小説> 語り手の位置を学ぶ。
- 11 <小説> テーマにそった短編小説を書く。
- 12 <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13 <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14 <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15 <随筆> を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2		11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渡辺 卓也	選択	2			

授業の到達目標

ビジネス実務に必要とされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー2で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

- 1 エクセルの基本操作確認
- 2 四則演算復習
- 3 関数練習
- 4 関数練習
- 5 集計について
- 6 集計について
- 7 まとめ
- 8 日商PC検定3級データ活用対策
- 9 日商PC検定3級データ活用対策
- 10 日商PC検定3級データ活用対策
- 11 日商PC検定3級データ活用対策
- 12 日商PC検定3級データ活用対策
- 13 日商PC検定3級データ活用対策
- 14 日商PC検定3級データ活用対策
- 15 確認演習

授業の方法

日商PC検定3級（データ活用）の合格を目指し、実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

日商PC検定試験データ活用3級公式テキスト&問題集（ver2019対応） FOM出版

留意事項

情報リテラシー2を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子	選択	1			

授業の到達目標

このクラスでは、英文をより正確に早く読めるようになるための演習を行う。使用するテキストは、比較的平明な英文毎に習得すべきスキルが提示されており、さまざまなexerciseを行いながら、徐々に速読力と語彙力を身につけることを目標とする。

同時に、楽しく多読を行いながら、英語で読書レポートを作成し、Writing力を伸ばすことを目指す。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を養う。

授業の概要

復習に重点をおき、授業内で読解した箇所については、細部まで読み直し、速読だけに終わるのではなく内容の深部まで理解できるようにする。さらに、学生の自主学習として、（図書館に配架されている）多読テキストを楽しく読み、読解後に英語で読書レポートを提出し、読書発表も行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Chapter 1 "For Better Grades—Use Your Brain!"
- 3 Unit 1 Chapter 2 "Oh, No! Not Another Test!"
- 4 Unit 2 Chapter 1 "We're in Vietnam!"
- 5 Unit 2 Chapter 2 "Safe Travel!"
- 6 Unit 3 Chapter 1 "Behind the Scenes"
- 7 Unit 3 Chapter 2 "The Rise of J.J.Abrams"
- 8 Review Quiz
多読発表
- 9 Unit 4 Chapter 1 "Laura Dekker: Record-Setter!"
- 10 Unit 5 Chapter 1 "You Are Amazing You Are Human!"
- 11 Unit 6 Chapter 2 "Moving from TV to the Web"
- 12 Fluency Practice "The Film and the Novel: Twilight"
- 13 Unit 6 Chapter 2 "Moving from TV to the Web"
- 14 Fluency Strategy "Movies for the Blind"
- 15 Review Quiz
多読の発表

授業の方法

テキストにより、英文をより正確に早く読むための演習を行う。各自が授業外において多読を行い、毎週、読書レポートを提出し、春学期において2回の多読書についての発表を行う。（図書館所蔵の多読書を利用する。）

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20% 多読（レポートと発表）40% Review Quiz 40%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

出席を重視する。欠席、および遅刻（早退）は減点される。規定に従う。

テキスト

Neil J. Anderson, Active 2 (Third Edition) —Skills for Reading, Cengage Learning K.K (2013)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2			11605	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	1				

授業の到達目標

このクラスでは、英語1に続き、英文をより正確に早く読めるようになるための演習を行う。使用するテキストは、比較的平明な英文毎に習得すべきスキルが提示されており、さまざまなexerciseを行いながら、徐々に速読力と語彙力を身につけることを目標とする。同時に、楽しく多読を行いながら、英語で読書レポートを作成し、Writing力を伸ばすことを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）とA（自律）を養う。

授業の概要

復習に重点をおき、授業内で読解した箇所については、細部まで読み直し、速読だけに終わるのではなく内容の深部まで理解できるようにする。さらに、学生の自主学習として、（図書館に配架されている）多読テキストを楽しく読み、読解後に英語で読書レポートを提出し、読書発表も行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Chapter 1 "Sounds from the Past"
- 3 Unit 7 Chapter 2 "For the Record: Album Reviews"
- 4 Unit 8 Chapter 1 "The Right Job for Young Personality"
- 5 Unit 9 Chapter 1 "A Brief History of Chocolate"
- 6 Unit 9 Chapter 2 "The Truth about Chocolate"
- 7 Review Quiz
多読の発表
- 8 Unit 10 Chapter 1 "Ads Are Everywhere"
- 9 Unit 10 Chapter 2 "Brand Engagement Gone Wrong"
- 10 Unit 11 Chapter 1 "Engineering a Better Burger"
- 11 Unit 12 Chapter 1 "Clean Up Australia, Clean Up the World"
- 12 Unit 12 Chapter 2 "Resources for the Future"
- 13 Fluency Practice "The People Behind the Music"
- 14 Fluency Practice "The Life of a Food Critic"
- 15 Review Quiz
多読の発表

授業の方法

テキストにより、英文をより正確に早く読むための演習を行う。各自が授業外において多読を行い、毎週、読書レポートを提出し、春学期において2回の多読書についての発表を行う。（図書館所蔵の多読書を利用する。）

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20% 多読（レポートと発表）40% Review Quiz 40%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

出席を重視する。欠席、および遅刻（早退）は減点される。規定に従う。

テキスト

Neil J. Anderson, Active 2 (Third Edition) – Skills for Reading, Cengage Learning K.K (2013)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3			11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	1				

授業の到達目標

英文を理解した上で分かりやすく音読するスキルを身につけることを主な目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）、I（知性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

英語の絵本を用いて、聞き手に分かりやすく音読をする練習を中心に行う。さらに物語に込められたメッセージを読み取り、概要を自分の言葉で簡潔に英語でまとめる練習をする。また、3行日記の課題を通して、日常的に使用する英語表現・語彙を学習し、英語の一般的な運用能力を高める。

授業計画

- 1 Course Introduction / English Rhythm
- 2 Phonics 1
- 3 Phonics 2
- 4 Story 1-1
- 5 Story 1-2
- 6 Story 1-3
Presentation of Story 1
- 7 Story 2-1
- 8 Story 2-2
- 9 Story 2-3
Summary and presentation of Story 2
- 10 Story 3-1
- 11 Story 3-2
- 12 Story 3-3
Summary and presentation of Story 3
- 13 Story 4-1
- 14 Story 4-2
- 15 Story 4-3
Summary and presentation of Story 4
- 16 Wrap-up
Exam

授業の方法

日常的な英語表現を用いたリズムの学習、前週の復習、英語で書か

れた物語を用いた音読練習を中心に授業を進める。一つの物語を読む毎に、物語に込められたメッセージを読み取り、概要を自分の言葉で簡潔に英語でまとめる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%
3行日記は週3回以上記入し提出、確認後に返却する。小テストや発表については、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

1) 課題の提出がされない又はテストを欠席した場合は、当該評価点を「0」とする。2) 欠席した場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。

テキスト

追って通知する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業・課題に取り組む積極性を重視する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅野 宜之	選択	2				

授業の到達目標

この講義を通じて、学生はニュース報道などで断片的に見聞きする「基本的人権」や「統治機構」とは憲法上いかなるものであるのか、系統的に理解できるようにする。国会が制定する法律や、政府の遂行する政策には時に憲法に違反する疑いのあるものもみられる。これらについて、批判的に検討することができるようになる。KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養うことになる。

授業の概要

この講義では、法律について専門的に学んだことがないという前提の下、日本国憲法に関する基礎的な知識をつけることを目的とする。講義では教科書のほか、パワーポイントとこれにもとづく資料プリントを使用する。まず日本国憲法の原理と制定過程について学んだ後、基本的人権について重要なものを取り上げ、解説する。続いて、統治機構についてそれぞれの組織を取り上げながらその活動の概要を学ぶ。

授業計画

- 1 日本の憲法の位置づけ:大日本帝国憲法と日本国憲法
- 2 平和主義
- 3 国会
- 4 内閣と地方自治
- 5 裁判所
- 6 人権の歴史と享有主体
- 7 人権の制限、二重の基準論
- 8 個人の尊重と幸福追求権
- 9 法の下での平等
- 10 思想、良心、信教の自由
- 11 表現の自由
- 12 生存権:健康で文化的な最低限度の生活を営む権利
- 13 学問の自由と教育の自由、教育を受ける権利と労働権
- 14 経済的自由
- 15 刑事手続き、適正手続の保障

授業の方法

パワーポイントと資料を使用して講義を進める。

準備学修

教科書とさまざまな報道資料をみて準備すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、期末レポート70%
講義内にミニレポートを課した場合は次回以降の講義でフィードバックを行う。
(期末レポート実施日程については講義内で連絡する)

欠席について

正当な事由あるときは、必ず連絡をすること。
(欠席過多の場合定期試験受験資格を失う)

テキスト

『憲法入門！市民講座』大久保卓治ほか編（法律文化社）

参考図書

『憲法判例百選I、II』（有斐閣）
『憲法（第八版）』芦部信喜（岩波書店）

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）に掲げられている、現代社会における諸問題、特に保健（環境汚染）、気候変動について深く掘り下げ、将来持続可能な社会を担う学生が、生涯における自身の健康管理だけではなく、社会の一員として活躍するための知識と実践力を身につける。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）およびS（奉仕）を養う。

授業の概要

講義形式および適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。
保健（環境汚染）に関する知識として、水俣病を取り上げ、環境汚染が社会に及ぼす影響について理解を深める。
気候変動に関する知識として、地球温暖化のメカニズムとその地球規模での対策の重要性を理解し、実践力を養う。
なお、授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次の授業ではグループディスカッションで意見等を交流させ、双方向での学習の場とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 講義内容、授業の進め方、評価方法について説明
- 3 環境汚染について考える①
- 4 環境汚染について考える②
- 5 環境汚染について考える③
- 6 環境汚染について考える④
- 7 環境汚染について考える⑤
- 8 環境汚染について考える⑥
- 9 環境汚染について考える⑦
- 10 環境汚染について考える⑧
- 11 環境汚染について考える⑨
- 12 環境汚染について考える⑩
- 13 環境汚染について考える⑪
- 14 環境汚染について考える⑫
- 15 環境汚染について考える⑬
- 16 環境汚染について考える⑭
- 17 環境汚染について考える⑮
- 18 環境汚染について考える⑯
- 19 環境汚染について考える⑰
- 20 環境汚染について考える⑱
- 21 環境汚染について考える⑲
- 22 環境汚染について考える⑳
- 23 環境汚染について考える㉑
- 24 環境汚染について考える㉒
- 25 環境汚染について考える㉓
- 26 環境汚染について考える㉔
- 27 環境汚染について考える㉕
- 28 環境汚染について考える㉖
- 29 環境汚染について考える㉗
- 30 環境汚染について考える㉘
- 31 環境汚染について考える㉙
- 32 環境汚染について考える㉚
- 33 環境汚染について考える㉛
- 34 環境汚染について考える㉜
- 35 環境汚染について考える㉝
- 36 環境汚染について考える㉞
- 37 環境汚染について考える㉟
- 38 環境汚染について考える㊱
- 39 環境汚染について考える㊲
- 40 環境汚染について考える㊳
- 41 環境汚染について考える㊴
- 42 環境汚染について考える㊵
- 43 環境汚染について考える㊶
- 44 環境汚染について考える㊷
- 45 環境汚染について考える㊸
- 46 環境汚染について考える㊹
- 47 環境汚染について考える㊺
- 48 環境汚染について考える㊻
- 49 環境汚染について考える㊼
- 50 環境汚染について考える㊽
- 51 環境汚染について考える㊾
- 52 環境汚染について考える㊿
- 53 環境汚染について考える
- 54 環境汚染について考える
- 55 環境汚染について考える
- 56 環境汚染について考える
- 57 環境汚染について考える
- 58 環境汚染について考える
- 59 環境汚染について考える
- 60 環境汚染について考える
- 61 環境汚染について考える
- 62 環境汚染について考える
- 63 環境汚染について考える
- 64 環境汚染について考える
- 65 環境汚染について考える
- 66 環境汚染について考える
- 67 環境汚染について考える
- 68 環境汚染について考える
- 69 環境汚染について考える
- 70 環境汚染について考える
- 71 環境汚染について考える
- 72 環境汚染について考える
- 73 環境汚染について考える
- 74 環境汚染について考える
- 75 環境汚染について考える
- 76 環境汚染について考える
- 77 環境汚染について考える
- 78 環境汚染について考える
- 79 環境汚染について考える
- 80 環境汚染について考える
- 81 環境汚染について考える
- 82 環境汚染について考える
- 83 環境汚染について考える
- 84 環境汚染について考える
- 85 環境汚染について考える
- 86 環境汚染について考える
- 87 環境汚染について考える
- 88 環境汚染について考える
- 89 環境汚染について考える
- 90 環境汚染について考える
- 91 環境汚染について考える
- 92 環境汚染について考える
- 93 環境汚染について考える
- 94 環境汚染について考える
- 95 環境汚染について考える
- 96 環境汚染について考える
- 97 環境汚染について考える
- 98 環境汚染について考える
- 99 環境汚染について考える
- 100 環境汚染について考える

授業の方法

授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次の授業ではグループディスカッションで意見等を交流させ、双方向での学習の場とする。

準備学修

日常や社会における健康に関する諸問題について、新聞やメディアなどを通じて意識を高めておく。
(Webで参照すること)

課題・評価方法、その他

- 1) レポート：受講した授業内容から選択し、レポートを提出する
- 2) 評価方法：定期試験：70%、授業時の感想ノート：30%

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

使用しない。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1			11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、近代スポーツを教材化し、みんなが楽しめるスポーツを体験し、スポーツ文化を創造していく過程を学ぶことで、主体者としてスポーツに関わっていくことができるようにする。また、スポーツの上手い下手で固定的な縦の価値観を持つのではなく、みんなで上手くなる水平の価値観に変革する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）I（知性）及びS（奉仕）を養う。

授業の概要

ゴール型、ベースボール型の教材をさらに教材化し、初心者と上級者をつなぎ、みんなで楽しみ上手くなることを目指す。
ゴール型ではアメリカンフットボールを安全に配慮したフラッグフットボール、ベースボール型では3人対3人で行うベース3on3を教材として行う。

授業計画

- オリエンテーション
フラッグフットボール①
基礎技術の習得
- フラッグフットボール②
1対1、2対2の攻防
- フラッグフットボール③
2対2の攻防
- フラッグフットボール④
2対2の攻防
- フラッグフットボール⑤
2対2の攻防
- フラッグフットボール⑥
3対3の攻防と作戦づくり
- フラッグフットボール⑦
3対3のゲーム
- フラッグフットボール⑧
3対3のリーグ戦
- フラッグフットボール⑨
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

- ベース3on3①
基礎技術の練習、2対2の攻防
- ベース3on3②
3対3の戦略・戦術づくり
- ベース3on3③
3対3のゲーム
- ベース3on3④
3対3のゲーム
- ベース3on3⑤
3対3のリーグ戦
- ベース3on3⑥
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

授業の方法

実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修

スポーツに関心を持ち、ニュース、新聞、Web等でスポーツに関する情報を獲得するよう努める。日頃より運動を取り入れて健康管理に努める。

課題・評価方法、その他

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70% 定期試験30%

欠席について

規定に従う。
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト

プリント配布

留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 年中行事 その壱
（正月について）
- 年中行事 その弐
（節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂（葵）祭）
- 年中行事 その参
（夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭）
- 年中行事 その四
（7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三）
- 神々の歴史
『古事記』と萩原規子『空色勾玉』を読む
- 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 邪馬台国のあった頃の中国（魏）
吉川英治『三国志』を読む。
- 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長) 社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、福祉、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉とわたしたち
- 3 社会福祉の歴史の変遷
- 4 社会福祉の理念(意味と考え方)
- 5 現代社会の生活問題と社会福祉
- 6 社会福祉行政と実施体系
- 7 社会福祉と社会保障の制度(生活保護制度を中心に)
- 8 社会福祉の専門職
- 9 共生社会の実現と障害者施策
- 10 子ども家庭福祉と社会福祉
- 11 少子高齢社会と子育て支援
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み及び医療福祉
- 14 社会福祉の課題(在宅・地域福祉)
- 15 まとめ講義とレポートの提出

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、レポート60%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

一瀬早百合「社会福祉とわたしたち」萌文書林 2022年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念や、社会にある様々な人権侵害事象について理解し、人権問題に対する知見を深めるとともに人権感覚を高めて実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な方法や、このクラスではKAISEIパーソナリティI(知性)とS(奉仕)を養い、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、学校教育の中でどうすればよいかを考察する過程で、K(思いやり)の諸能力を生かす。

授業の概要

人権教育は、人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成するための教育である。授業では、社会にある様々な人権問題や人権侵害事象についての知見を深めながら、目撃者としての人権意識や人権感覚についても検証し、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、教育の中でどうすればよいかを考察する。

授業計画

- 1 ☆人権教育とは？
・「人権問題」にはどんなものがあるか？・今まで学校で受けてきた「人権教育」は？・「戦争」と「人権」・「新型コロナウイルス感染症」と「人権」
- 2 ☆差別はなぜ起こるのか？
・「震災」と「震災デマ」・フェイクニュース・なぜ人は「人権侵害」するのか？・「人権教育」とは？
- 3 ☆人権教育を推進するために
・「人権問題」を考えるにあたって大切なことは？
- 4 ☆同和問題を考える①
・同和問題(部落差別)って何？
- 5 ☆同和問題を考える②
・同和問題(部落差別)とは・同和問題の歴史
- 6 ☆同和問題を考える③
・同和对策審議会答申・33年にわたる同和对策事業・見えにくい「部落差別」問題・部落差別解消推進法・「寝た子」はネットで起こされる
- 7 ☆ヘイトスピーチを考える ～在日コリアンの理解～
・外国人と人権・朝鮮半島と日本の関係・「在日コリアン」とは？・ヘイトスピーチ解消法
- 8 ☆障がい者理解
・人権三法・障害者差別解消法・「障害を理由とする差別」とは・合理的配慮
- 9 ☆特別支援教育・インクルーシブ教育
・特別支援教育をめぐる制度改正・インクルーシブ教育システ

ム」とは・日本のインクルーシブ教育の現状と課題

- 10 ☆いじめ問題を考える
・いじめ防止対策推進法・いじめ防止基本方針・いじめが起こったらどう対応するか？・「いじめ」をどう教えるか？・情報モラル教育
- 11 ☆セクシャルマイノリティの理解
・性の多様性に関する基礎知識・日本の「性的マイノリティ教育」の現状・性的指向に関する世界の状況
- 12 ☆人権感覚・基本的人権
・日本の「ジェンダー・ギャップ指数」・自分自身の人権感覚をみつめてみる・人権自己診断・改めて「基本的人権」を考える
- 13 ☆世界人権宣言・子どもの権利条約・ユニセフ(UNICEF)・国連児童基金
- 14 ☆SDGsから考える人権教育
- 15 ☆まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら社会にある様々な人権侵害事象についての学習を深める。また人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

準備学修

報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布されるレジメやプリントをファイルし、整理保存すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

- 1 講義ガイダンス
- 2 度数分布表とヒストグラム
- 3 平均値
- 4 分散と標準偏差
- 5 度数分布表からの分散と標準偏差
- 6 標準偏差でデータの評価
- 7 相関と回帰
- 8 正規分布
- 9 正規分布を使って予言を行う
- 10 仮説検定の考え方
- 11 区間推定の考え方
- 12 母集団を調べる①
- 13 母集団を調べる②
- 14 母集団を調べる③
- 15 まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

小島寛之著『統計学入門』（ダイヤモンド社）

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーとは何かを説明できる。あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

- 1 ジェンダーとは
- 2 「女らしさ」「男らしさ」と性別役割
- 3 教育とジェンダー
- 4 労働とジェンダー 1
- 5 労働とジェンダー 2
- 6 結婚・離婚とジェンダー 1
- 7 結婚・離婚とジェンダー 2
- 8 子育てとジェンダー 1
- 9 子育てとジェンダー 2
- 10 ケアとジェンダー
- 11 暴力とジェンダー
- 12 表現とジェンダー
- 13 政策とジェンダー
- 14 国際化の中の女性問題・男性問題
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

- 1 簿記の基礎
- 2 仕訳①～商品売買
- 3 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
- 4 仕訳③～手形
- 5 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
- 6 仕訳⑤～その他の債権債務
- 7 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
- 8 仕訳⑦～租税公課と資本金
- 9 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
- 10 決算①～帳簿への記入
- 11 決算②～試算表の作成
- 12 決算③～伝票制度
- 13 決算④～精算表と財務諸表
- 14 決算⑤～帳簿の締め切り
- 15 まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題をとりあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族に関する基礎知識 1
- 3 家族に関する基礎知識 2
- 4 配偶者の選択
- 5 結婚と夫婦関係
- 6 離婚・再婚と家族関係
- 7 ライフコースと家族
- 8 子どもの養育と家族関係 1
- 9 子どもの養育と家族関係 2
- 10 中年期の家族関係
- 11 高齢期の家族関係
- 12 家族に関する政策と法
- 13 家族と社会的ネットワーク
- 14 家族の変化と家族関係
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「子ども家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらおう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

- 1 情報活用に必要な数学1～N進法
- 2 情報活用に必要な数学2～割合
- 3 情報活用に必要な数学3～統計
- 4 表計算のしくみ1～計算式
- 5 表計算のしくみ2～論理式
- 6 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
- 7 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
- 8 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
- 9 情報検索の基礎3～情報管理の方法
- 10 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
- 11 ビジネスとコンピュータ1～会計
- 12 ビジネスとコンピュータ2～会計
- 13 有価証券報告書の読み方1
- 14 有価証券報告書の読み方2
- 15 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、配布するプリントを簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

木村直人「これならわかる決算書キホン50！」〈2024年版〉中央経済社

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー1			11501	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

PCやインターネットの基本操作や注意点を確認した後、3種のオフィスアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）の基礎知識を演習を通して修得する。

授業計画

- 1 本科目の概要、PC操作の基本
- 2 インターネットの利用法と注意点(セキュリティ・情報倫理)
- 3 ワープロ(Word)① 基礎
- 4 ワープロ(Word)② 表
- 5 ワープロ(Word)③ 画像と図形
- 6 ワープロ(Word)④ 文書作成の実践
- 7 表計算(Excel)① 基礎
- 8 表計算(Excel)② 関数
- 9 表計算(Excel)③ グラフ
- 10 表計算(Excel)④ データ分析の実践
- 11 プレゼンテーション(PowerPoint)① 基礎
- 12 プレゼンテーション(PowerPoint)② アニメーション
- 13 プレゼンテーション(PowerPoint)③ スライドの作成
- 14 プレゼンテーション(PowerPoint)④ 発表の実践
- 15 まとめ

授業の方法

演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。
平常点50% 定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

30時間でマスター Office2019 実教出版